



第1回公開授業研究会(小2生活科) 「ときどき わくわく 村たんけん」

1年生の時には秋見つけを、2年生になって春見つけを行い、「自然」に目を向け、それぞれが見つけたものを表現し合う活動をしてきました。春見つけで見つけたものを地図にまとめ、村探検の導入としました。全員で春見つけと同じルートを回ることで、新たな気づきや探検への充実感を得られるようにしました。気づきの質を高めるために、村探検には2回出かけることにしました。気付いたことはタブレットに写真を残したり、働いている人にインタビューをしたりしました。1回目は「自然」「場所」「働いている人」について「見て気付く」ことを大切に、2回目は1回目を感じた「もっと知りたい」「確かめたい」を探検の意欲付けとしました。

本時は、2回目の村探検で見つけた北川村の「すごい」を共有し、気づきの質を高めるために、どうして「すごい」と感じたのかを1回目の気づきと比較して考えることをねらいとした授業でした。その際、一人一人が準備した分身ペープサートで地図を指すことで、どの場所のことを説明しているのか分かりやすくしていました。事前にふせんに書いていた「村探検で確かめたこと」を出し合い、関連していることを発表したり進んで分類したりする児童の姿が見られました。



これまでの活動を地図で振り返ろう



探検のねらいや目的を確認



「北川村のすごい」を発表



意見を聞き合いながら考えを深める



みんなの気づきでにぎやかになった地図



自分たちで付箋を分類



分類した付箋の理由を説明



授業の振り返りをノートに書く

付箋を分類、意見を関連付けて板書

できたか体験などを根拠に発表



研究協議にて授業者より

✧ゴールの姿として思い描いていたのが、村探検で出会った人々や訪ねた場所が「みんなのために働いている」「みんなのためのもの」という言葉が子どもたちから引き出せるように授業を行ってきた。
 (授業を終えて) 45分の中で収めることができなかつたこと、(教師が) 強引にもって行ってしまったところが反省点としてある。

指導助言（山崎 指導主事より）



○しかけが効果的であった（事前に教師が付箋の内容を理解・把握し、気付いてほしい場面の写真を適切に提示していた）

○子どもの発言をつないで「みんなのために」というめあてに到達できたのは良かった。

○探検で見つけたこと、自分の体験したこと

⇒意見交流さえすれば気づきの質が高まる訳ではない。「見つけさせたい物」、「出会わせたい人物」、「気付かせたいこと・体験させたいこと」を担当がしっかりと持ち意図的に仕組まれていた。単元構想の時点で、どんな子どもを育てたいのか、具体的な子どもの姿を持っていないと手立ては仕組めない。

△気づきは出ていたのに、振り返りに書けなかった

⇒子どもの言葉が板書に残っていない（可視化されていない）。子どもの思考の流れが矢印でつながっていたり、子どもの考えが出されていたり…なぞっていくと振り返りの手立てになる。【板書の工夫】

齋藤 調査官より

★板書

気づきの質を高めるために児童のつぶやきを残すことや、発表で出て来た人物の写真を最後に一気に貼っていたがその都度貼る方が良かった。（子どもの思考の流れが分かる板書の仕方）

★付箋の仲間分け

同じ意見をまとめるときでも、ふせんは重ねないで並べる（重ねてしまうと他の意見が見えなくなる）

★他教科とのつながり

3年生の社会科の校区探検での方角（空間認識）にもつながる

授業について

○教材研究ができています（チームで）

○先生の構え

- ・子ども自身が相違点に気付いたり比較したりできるように、春見つけと同じルートで村探検をする。
- ・子どもの思いや願いをしっかりと受け止め、ねらいに向けて子どもを導いている。前時までのつぶやきや発言・活動を取り上げて全体へつなぐことで思考を深めている（ノートの振り返りをその日のうちに目を通し、コメントを残す）。
- ・的確な発問や切り返し。⇔子どもの実態把握ができていから授業の中で生かすことができる。
- ・振り返りをさせることにより、意味づけ・価値付けができています。
- ・国語科等の学びを生かした言語能力の育成（発表の仕方）
「見つけたことは2つあります。1つ目は～、2つ目は～」
- ・ペープサートも発言への意欲を高めるのに効果的だった。

○子ども

- ・子どもたちが自分の思いをしっかりと持っている。
伝え合う中で考えを深め合っている。
- ・先生大好き！村が大好きということが分かる授業だった。
- ・意見がたくさん出たことで、気付かなかったことに気付いていた。

協議の視点

『気づきの質を高めるための工夫』

「北川村のすてき」について、探検で見つけたことや自分の体験したことを踏まえた意見の交流が、気づきの質を高める手立てとして効果的であったか。

効果的であった！

ふりかえりまとめ



1 授業や協議で学んだこと、今後に生かしたいこと

★本時の目標：村探検で見つけた北川村の「すてき」を1回目の探検での気づきと比較しながら話し合うことで、地域のさまざまな場所や人々と自分の生活との関わりを捉えることができる。

→目標が盛りだくさんでは…？

- 「みんなのために」の視点は大事！ → 探検時に働いている人の大変な場面を見せておく
- 体験活動が大事 ←→ 体験で気づきの質を高める
- 理由をつけての発表は難しかったが、1回目との比較で自然以外の視点で見えてきた
- 児童の意見に共感・価値づけ（思考を深めるような問いかけや切り返し）
- 活動の精選 ←→ 時間配分（ペープサートはいるのか？付箋の仲間分けは発表しているからなくても…）
- 個人→全体共有のやり方は良かった
- 教師「誰のため？」→児童「みんなのため」と答える

時間短縮に

何度も問い返す

具体像があげられていた

時間短縮

ペープサートはいるのか？

→ ふせんの同じところをまとめる(発表しているからいい)

1回目との比較→自然だけでなく先生の視点で見発見!!

事前に教師がふせんの内容を把握していた。写真を見せることでより子どもが分かりやすかった。

考えられるように促す

どうして「すてき」と感じたのか

理由が少ない…

「みんなのために」の視点は大事!!

たんけん時「大変な」と思う場面を見せたい

理由をつけての発表が難しかった

村たんけんで見つけたものの発表にふたっていた。

6 本時の指導 小単元4 (4/4)

本時の目標	村探検で見つけた北川村の「すてき」を1回目の探検での気づきと比較しながら話し合うことで、地域のさまざまな場所や人々と自分の生活との関わりを捉えることができる。
観点別評価指標	【見通し】 地域の場所や人々、自分の生活と関わりながら捉えよう。 【思考・判断・表現】 発表用の表現物、北川村の地図、村探検の写真、タブレット、ノート
準備物	学習の記録
学習活動	学習の展開
1	学習の展開
2	学習の展開
3	学習の展開
4	学習の展開

教師の問いかけ → 効果的

児童の発言をふまえて「みんな誰?」(把握できていない)

働いている人の思いを聞く。写真

→ みんなのために つながる

誰に、何のために「目的」を決めよう

時間短縮のために

ペープサートは必要だったのか？

ふせんをまとめる時間は省けた。

個人→全体共有のやり方は◎

板書「みんなのもの」◎

1回目自然 → 2回目 T: 物、人

◎ 教師「誰のため?」 → 児童「みんなのため」と答える

具体像があげられていた

その他

参観者より

- 1時間の授業の中で①着眼点が増えたこと、②学び方（仲間分け）、③内容（みんなのために）について**気づきの質が高まっていた**と思います。本時以外の授業でも**子どもが鍛えられている**など思いました。
- ICTを活用したり、**子どもたちの発言をつないだり**して、探検を通して得た**気づきの質を高めることができていた**。
- インタビュー等を通して**村の人たちの思いをしっかりと捉えられて**いました。この経験が小学校のみならず、中学校へ進学した際にもつながっていくものだと思います。
- 黒板での分類場面は、今後、総合や他の教科の学びにつながる良い場面だったと思いますが、**子どもが操作しやすい環境にする必要があったのではない**かと思います。例えば、発表のときホワイトボードなどに貼っておいて、場所毎にグループで床や机に持って帰って操作するとか…。絵地図上では狭いと思いますが、子どもはやりたかったようです。
- 教員が1回目と2回目の**地域探検のそれぞれのねらいと視点を持ち、想定される子どもの気づきをイメージできていた**と思います。そのことが「地図の活用」や「適切な写真の選択・提示」から良く分かったし、 掲示物から児童の学習の深まりを感じました。
- 日頃の学びの足跡を**しっかりと掲示物にして**残され、**子どもの気づきやつぶやきを丁寧に**見取り、授業を進められていた。
- 地域との連携が**スムーズにできていた**ところが参考になった。
- どの児童がどのような気づきを得ているか、どんな体験をしたかなど、**個々の児童の学びを先生が的確に拾い上げ、つなげていた**からこそ、**児童の意識が「みんなのための場所」**に向き、**地域への認識が深まった**（例：「わたしたちの村には、みんなを笑顔にするために働いている人がたくさんいる。」）のだと感じました。
- 児童主体で全員活発に意見**が出ていて良かった。
- 「**気づきの質が高まった**」ことの見取りが難しいと思いました。
- 発表する場では、ただ意見を言い合う場にするのではなく、**気づきの質が高まっていくための手立てを教師が、たくさん用意しておく必要がある**など改めて学ぶことができました。

授業者より

- ゴールイメージを具体的にもっておく**ことで、**準備物や子どもへの声かけをぶれずに行うことができる**と身をもって感じる事ができた。
- 子どもが**色々なことに気づき、自由に発言できるようになった分、板書に意見や考えをまとめることが難しい**と感じた。授業の振り返りをするためにも、**子どもの思考が分かる板書の仕方を考えていく必要がある**。
- 指導助言、講話を聞くことで**自分自身が気づいていない子どもたちの学びの深まり**を教えていただいた。

共通取組事項！

★体験活動を充実させる ←→ 体験や経験をもとに自分の言葉で考えを伝え合い、振り返りに残す

子どもの気づき・つぶやきが可視化された板書(振り返りの手立てにもなる)

★子どものつぶやきや一人一人の発言を上手く活かす(教師の切り返し・気づきへの価値付け)

★子どもの意見、活動を把握し、意図的に問いかけたり、発言をつなげたりして思考を深められるようにする